

### 3) 極小未熟児就学前発達

研究協力者 犬飼和久  
共同研究者 河野親彦 鬼頭秀行 斉藤さつき  
神谷育司

聖隷浜松病院において、昭和61年、昭和62年、63年に極小未熟児で出生し生存退院した症例は、41、47、48名である。これらの生存児について、就学前（6歳時）に知能検査と、神経学的チェックを施行したものは61年39/41年、62年44/47、63年43/48名である。対象児の出生体重と在胎週数（表1）、追跡率と知能分布を表2に、発達障害の頻度を表3に示した。また、各年度におけるWISC-Rの出生体重別の結果を表4にWISC-R下位検査項目の平均と標準偏差を表5に示した。

知能検査には正常（FIQ $\geq$ 85）が69.8~79.5%、PIQとVIQの差15以上が13.6~34.9%、境界が12.8~18.2%、精神遅滞の、7.7~11.6

%と年度によりかなりの巾がみられる。また脳性麻痺は昭和62年出生者に2名（4.5%）みられたのみで、その他の年度に発生していないが、微細運動障害の30.8~43.2%、視覚（視空間認知障害が15.4~43.2%、聴覚認知/記憶障害が17.9~36.4%）と年度によりかなりの巾があるものの、かなりの高率に出現している。これらは将来の学習障害の可能性を指差するものである。出生体重別では、超未熟児と極小未熟児で、61年、62年、63年共に差がみられている。全体として就学前において、極小未熟児の方が超未熟児より知能指数が高い。

WISC-Rの下位検査項目では類似の平均、数唱の平均、絵画配列などに得点の低いものが多くみられた。

表1 対象児の出生体重と在胎週数

	入院児数 (名)	退院 生存	児数 死亡	WISC-R 施行数	年齢 (y)	出生体重 (g)	在胎週数 (w+d)
昭和61年生	48	41	7	39	6:8 (0.45)	1150.28 (251.62)	30+2 (2.95)
昭和62年生	60	47	13 1(退院後)	44	8:6 (0.29)	1143.34 (238.12)	29+9 (3.64)
昭和63年生	56	48	8	43	6:3 (0.20)	1130.56 (312.36)	30+3 (3.12)

表2 追跡率及び知能分布

	追跡率	正常範囲(FIQ $\geq$ 85)	Discrepancy(15 $\leq$ )	境界(FIQ=71-84)	精神遅滞(FIQ $\leq$ 70)
昭和61年生	39/41(95.7%)	31(79.5%)	11(28.2%)	5(12.8%)	3(7.7%)
昭和62年生	44/48(95.7%)	31(70.5%)	6(13.6%)	8(18.2%)	4(9.1%) *Blind 1名
昭和63年生	43/48(89.6%)	30(69.8%)	15(34.9%)	7(16.3%)	5(11.6%) *Not scored 1名

表3 神経行動障害の結果

	不器用	微細運動障害	CP	視覚/視空間 認知障害	聴覚認知/ 記憶障害	体性感覚 障害	構音障害	多動	熱性痙攣
昭和61年生	2(5.1%)	12(30.8%)	0	6(15.4%)	7(17.9%)	0	3(7.7%)	0	4(10.3%)
昭和62年生	0	19(43.2%)	2(4.5%)	19(43.2%)	16(36.4%)	4(9.0%)	2(4.5%)	3(6.8%)	9(20.5%)
昭和63年生	0	18(41.9%)	0	11(25.6%)	10(23.3%)	3(7.0%)	4(9.3%)	2(4.7%)	5(11.6%)

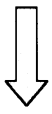
\*昭和63年生の熱性痙攣にはてんかん1名を含む

表4 各年度におけるWISC-Rの出生体重別の結果

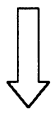
WISC-R 施行数	昭和61年生			昭和62年生			昭和63年生		
	<1000g	1000-1499g	Total	<1000g	1000-1499g	Total	<1000g	1000-1499g	Total
FIQの平均(SD)	91.75(16.31)	97.70(14.57)	95.87(15.38)	84.73(6.50)	91.09(18.57)	89.47(16.59)	85.82(11.24)	91.55(15.56)	90.05(14.90)
VIQの平均(SD)	92.92(16.47)	97.30(13.11)	95.95(14.37)	85.08(8.56)	91.13(16.50)	89.48(15.01)	86.50(12.61)	93.48(15.81)	91.53(15.31)
PIQの平均(SD)	91.92(16.67)	98.89(16.99)	96.74(17.19)	87.09(7.83)	92.78(19.02)	91.33(17.06)	84.90(15.20)	90.81(16.60)	89.26(18.45)

表5 WISC-R下位検査項目の平均と標準偏差

	昭和61年生			昭和62年生			昭和63年生		
	<1000g	1000-1499g	Total	<1000g	1000-1499g	Total	<1000g	1000-1499g	Total
知能の平均(SD)	9.33(3.25)	9.63(3.16)	9.54(3.19)	7.83(2.03)	8.78(2.88)	8.52(2.71)	8.50(2.63)	8.97(3.00)	8.84(2.91)
言語類似の平均(SD)	8.58(3.20)	8.15(2.74)	8.28(2.90)	4.42(83.01)	5.34(4.49)	5.09(4.16)	5.83(3.53)	7.65(3.71)	7.14(3.75)
算数の平均(SD)	9.58(2.78)	10.04(2.86)	9.90(2.84)	8.50(2.63)	8.97(3.51)	8.84(3.30)	8.25(3.11)	9.68(2.73)	9.28(2.91)
単語の平均(SD)	7.83(3.34)	9.33(3.06)	8.87(3.22)	7.92(2.75)	10.31(3.39)	8.73(3.45)	7.42(3.38)	8.23(3.94)	8.00(3.81)
理解の平均(SD)	8.00(3.79)	10.04(2.99)	10.23(2.97)	9.08(2.43)	10.00(2.77)	9.98(2.46)	8.83(2.23)	10.32(2.88)	9.58(2.79)
数唱の平均(SD)	7.10(2.84)	9.27(3.45)	8.67(3.43)	7.83(2.78)	8.75(3.72)	8.50(3.52)	8.25(3.14)	8.29(3.01)	8.00(3.08)
動作									
絵画完成 $n=10$	10.17(2.85)	10.52(3.41)	10.41(3.26)	8.27(1.96)	9.53(3.54)	9.21(3.26)	8.83(3.46)	9.10(3.26)	9.02(3.32)
絵画配列 $n=10$	7.92(3.43)	8.96(3.14)	8.64(3.27)	8.27(2.83)	8.63(4.04)	8.53(3.77)	5.58(2.14)	7.81(3.39)	7.19(3.25)
積木の平均(SD)	9.33(3.79)	9.48(3.45)	9.44(3.56)	7.82(1.80)	8.47(3.56)	8.98(3.33)	7.25(3.09)	8.90(2.94)	8.44(3.08)
作									
組合の平均(SD)	8.83(3.67)	9.04(2.94)	8.97(3.18)	6.36(4.12)	8.34(3.61)	7.93(3.82)	6.50(4.01)	8.87(3.74)	8.21(3.96)
符号の平均(SD)	8.33(2.72)	11.48(3.81)	10.51(3.80)	10.36(3.47)	8.75(3.65)	9.19(3.66)	8.42(4.32)	8.39(3.98)	8.48(3.90)
性									
迷路の平均(SD)	10.90(3.78)	10.85(3.51)	10.72(3.59)	9.45(2.81)	8.88(3.59)	9.02(3.41)	8.55(2.10)	10.13(4.47)	8.71(4.05)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



聖隷浜松病院において、昭 61 年、昭 62 年、63 年に極小未熟児で出生し生存退院した症例は、41、47、48 名である。これらの生存児について、就学前(6 歳時)に知能検査と、神経学的チェックを施行したものは 61 年 39/41 年、62 年 44/47、63 年 43/48 名である。対象児の出生体重と在胎週数(表 1)、追跡率と知能分布を表 2 に、発達障害の頻度を表 3 に示した。また、各年度における WISC-R の出生体重別の結果を表 4 に WISC-R 下位検査項目の平均と標準偏差を表 5 に示した。